

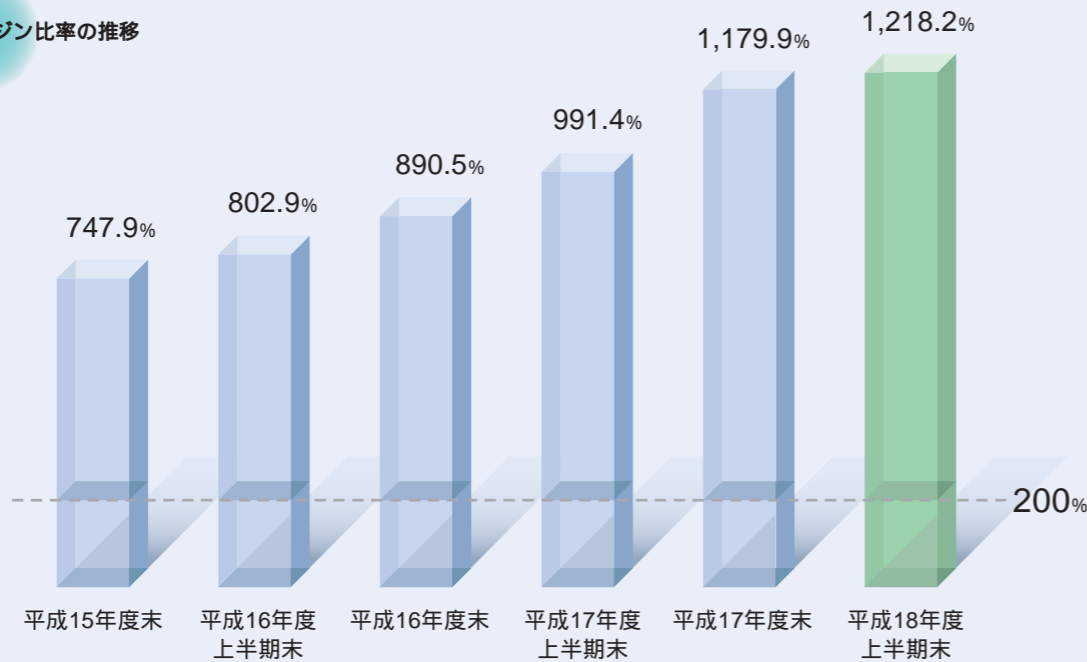
# 資産・財務内容において、トップレベルの健全性を堅持し、お客さまに安心をお届けします。

予測を超えたリスクにも十分対応できる  
支払余力を確保しています。

ソルベンシー・マージン比率  
**1,218.2%**

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。

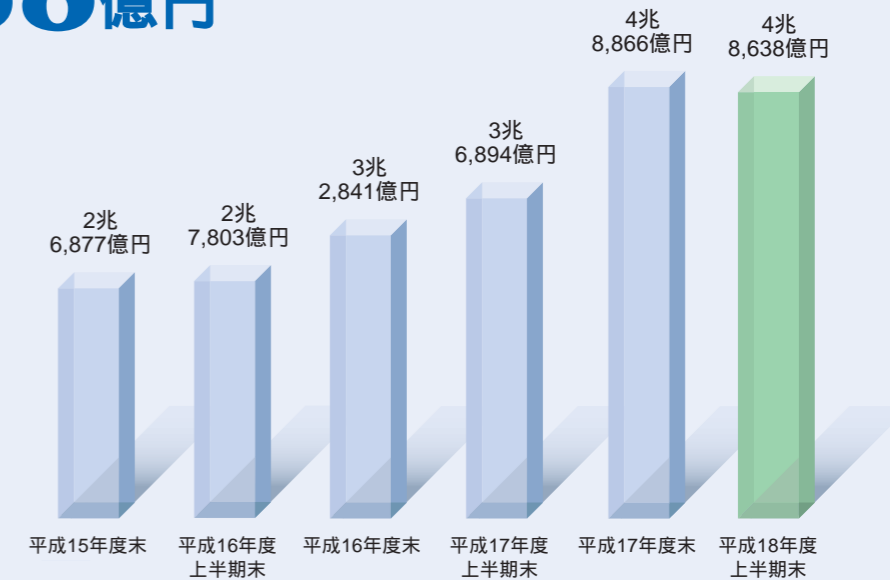
ソルベンシー・マージン比率の推移



健全な経営を維持していくための  
十分な純資産額を備えています。

実質純資産額  
**4兆8,638億円**

実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。



バランスのとれた堅実な資産内容で、  
十分な企業体力を堅持しています。

含み損益(一般勘定資産全体)  
**3兆462億円**

含み損益とは、保有している資産の時価と帳簿価額(取得価額)との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。

当社は次の主要な資産において、含み益を確保しています。(平成18年度上半期末)

公社債 267億円	株式 2兆3,683億円	外国公社債 1,106億円
外国株式等 3,098億円	土地(注1) 2,325億円	その他(注2) 19億円

(注1)土地には借地権を含めています。(注2)その他は、買入金銭債権・デリバティブ取引等です。

ソルベンシー・マージン比率について、より詳しくご理解いただくために

ソルベンシー・マージン比率  
**1,218.2%**

$$\text{ソルベンシー・マージン比率} = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額}}{\text{リスクの合計額}} \times \frac{1}{2}$$

ソルベンシー・マージン総額  
保険金・給付金等の支払余力の総額  
**4兆7,701億円**

リスクの合計額  
通常の予測を超えて発生するリスク  
**7,830億円**

ソルベンシー・マージン総額には、次の額が含まれています。  
純資産の部合計 価格変動準備金  
危険準備金 一般貸倒引当金 など

次のようなリスクを数値化しています。  
保険リスク相当額(大災害の発生など)  
予定利率リスク相当額(運用環境の悪化など)  
資産運用リスク相当額(株価の暴落など)  
経営管理リスク相当額  
最低保証リスク相当額

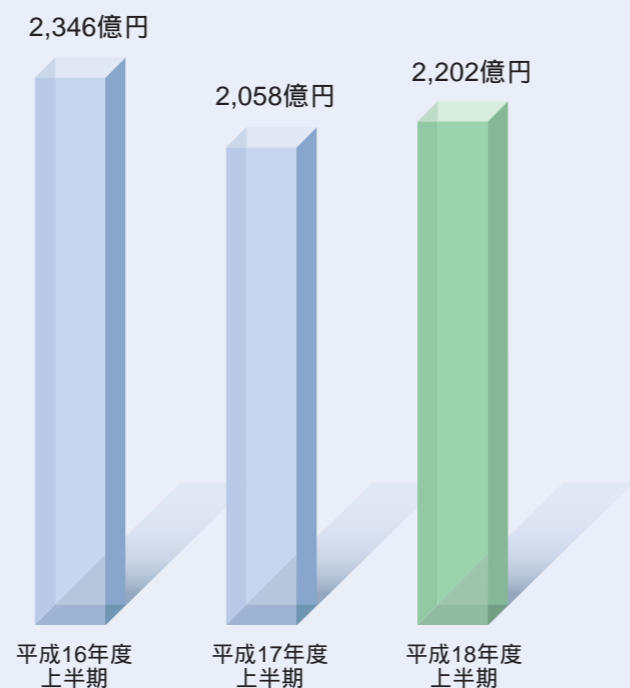
## 安定した収益力を有しています。

### 基礎利益

# 2,202億円

(平成18年度上半期)

基礎利益とは、保険料収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表わす指標です。基礎利益から、有価証券の売却損や評価損、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを差し引いた最終的な剰余を、事業年度末決算において定款に従い配当としてご契約者に還元しています。



### 三利源を開示しています

生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を示す指標である「基礎利益」は、その内訳として「費差」「危険差」「逆ざや」の「三利源」から構成されています。当社では、ご契約者をはじめとして、広く一般の方に対して、期間損益の増減要因などを含め、経営状況をよりご理解いただくために、平成17年度決算から「三利源」の状況を開示しています。

#### 三利源とは

<b>費差</b>	<p>保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出との差額</p> <p>平成18年度上半期は、合併に伴う事業費縮減効果が継続的に表われたことにより、前年同期並の費差を維持しています。</p>
<b>危険差</b>	<p>保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額</p> <p>平成18年度上半期は、団体保険において実際の保険金・給付金等支払額が減少したことなどにより81億円増加しています。</p>
<b>逆ざや</b>	<p>保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額</p> <p>平成18年度上半期は、前年同期と比較して運用環境が改善したことなどにより70億円改善しています。</p>

	金額	前年同期差
<b>基礎利益</b>	2,202億円	144億円
費差	716億円	8億円
危険差	2,087億円	81億円
逆ざや	601億円	70億円

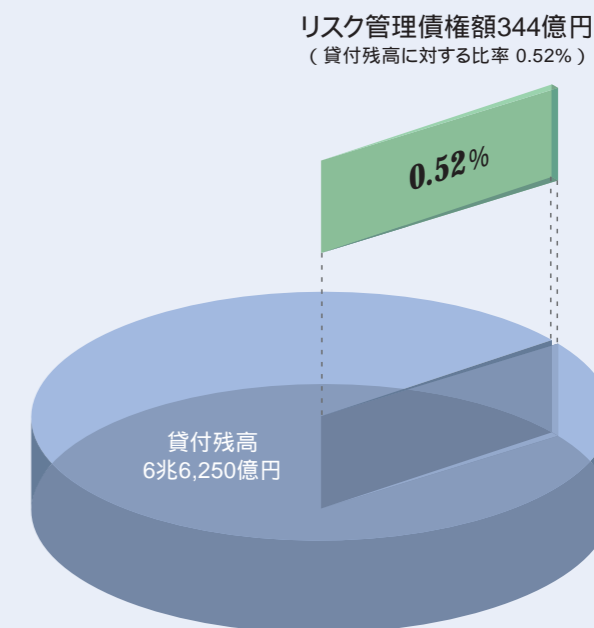
## 厳正な自己査定を実施し、資産内容の健全性を堅持しています。

### リスク管理債権

# 0.52%

(リスク管理債権額の貸付残高に対する比率)

リスク管理債権とは、貸付金のうち、返済状況が正常でない債権を「破綻先債権」「延滞債権」「3か月以上延滞債権」「貸付条件緩和債権」の4つに区分した総称です。平成18年度上半期末のリスク管理債権額は344億円、貸付残高に対する比率は0.52%と、きわめて低い水準を堅持しています。



### 当社の格付 (平成18年11月1日時点)

「格付」とは、会社の収益力・財務状況などを、さまざまな角度から総合的に評価し、わかりやすい記号で表わしたものです。

格付投資情報センター (R&I) 保険金支払能力格付 <b>A+</b>	日本格付研究所 (JCR) 保険金支払能力格付 <b>A+</b>
スタンダード&プアーズ (S&P) 保険財務力格付 <b>A-</b>	フィッチ・レーティングス 保険会社財務格付 <b>A</b>
	AMベスト社 保険財務力格付 <b>A</b> (Excellent)

「保険金支払能力格付」は、保険金支払債務を契約どおり支払うことができる能力を評価したものです。「保険財務力格付」は、保険契約の諸条件にしたがい保険金を支払う能力に関し、保険会社の財務内容について評価したものです。「保険会社財務格付」は、保険会社の財務力、保険契約者および契約保有者に対する保険金の支払能力等について評価したものです。上記の格付は、当社が依頼して取得したものです。格付は、個別の保険契約の加入・解約・継続を推奨するものではありません。格付は、上記時点での格付会社の意見であり、将来的に変更・保留・撤回されることがあります。